（別紙4）

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2471100236		
法人名	医療法人　茜会		
事業所名	グループホーム　みやき		
所在地	三重県熊野市久生屋町541		
自己評価作成日	平成　25年　9月　25日	評価結果市町提出日	平成26年2月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=2471100236-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成　25　年　11　月　26　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・家庭的な雰囲気作りを大切にし利用者のペースで、ゆったりと安心して楽しみのある
　日常生活を送って頂けるよう支援しています。
・週に一度、音楽療法士を迎え懐かしい歌や昔ながらの地元の行事、懐かしい食べ物、
　生活の話などを混じえて回想法による心のマッサージ、脳の活性化を図っています。
・毎月担当者が御家族に写真や近況報告の便りを出し、遠方の御家族も安心して頂けるよう
　心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

四季の移ろいを感じられる自然豊かな住宅地に立地している、グループホームみやきは通所介護・訪問介護・居宅介護支援・介護タクシーを併設し、三年前に新築移転された事業所である。敷地はとても広く、ゆったりとしており、建物も落ち着いた佇まいになっている。高齢者介護の深い知識と豊富な経験をもち、利用者・職員ともに全幅の信頼を得ている運営者のもとグループホームの理念『あわてず、ゆっくり、のんびりと』を看護師でもあるホーム長と管理者・全職員が共有し、日々の介護にあたっている。昼食時、『此処の食事は毎日美味しい！』と話された利用者を見守る職員の眼差しも優しく、家族からも『此処に来たら居心地が良いので長居してしまう』と感謝の声が多く届いている。法人理念『家庭的な生活と地域社会への参加・・・。』を目指し、音楽療法士による音楽療法や園庭での果実収穫や野菜作りなどで、優しく楽しいケアを実践している夢のある、この地域に無くてはならない事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あわてず、ゆっくり、のんびりと」の理念を忘れないようホーム内の目に付く所に掲示し実践している。	グループホームの理念『あわてず、ゆっくり、のんびりと』を、廊下の壁に掲げ、ホーム長・管理者・職員ともに、常に日々のケアで振り返りながら、ゆっくりと利用者について歩くなどの実践に繋げていくように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に職員と利用者が一緒に参加したり、秋祭りやダンスクラブの子供達が慰問して来られる時は地域の人や老人会にも呼びかけし 徐々に交流している。	久生屋区自治会に加入し、事業所の秋祭りには地域の方々に参加していただいている。近所のガソリンスタンドにも利用者の見守りをお願いして、散歩時などに日常的に交流し、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無断外出する利用者がおり近隣の人々、区長、民生委員の方々に支援依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より年6回の予定で2ヶ月に1度行なっており具体的な意見をサービス向上に活かしている。	本年度は6回開催予定である。運営推進会議で外部の方々から、色々な意見を出していただくことが、職員の楽しみになってきている。議事録を作成し、そこでの意見や要望をサービス向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的な取り組みはできていない。	介護センターみやき（グループホーム・通所介護・訪問介護・居宅介護支援・介護タクシー）として、熊野市健康長寿課とは協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドより転倒の恐れのある利用者には、マットを敷いたりベッドを使用せず介助したりフロアー、居室の鍵は自由に外に出られるように開放、拘束のないケアに取り組んでいる。	代表者・全職員ともに、言葉の拘束・身体拘束の弊害をよく理解し、ベランダに自由に出入りできるように、各居室の窓の鍵はかけていない。いつでも洗濯物を干したり、広い庭に出ることができるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等は行なっていないが注意を払い防止できている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会がなくできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、不安や疑問な点には十分な説明を行なっている。解約、改定の際にも事前に説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に日頃の様子をお話しながら意見、要望をお伺いし質の向上に活かしている。家族の代表にも運営推進委員会に参加して頂き、ご意見をお聞きしている。	毎月、担当者から手書きの近況報告（写真付）を家族に送付して、どんなことでも話してもらえるような関係づくりに努めている。また家族が訪問し易い様な雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望はサービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のカンファレンス時毎朝の申し送り時に 随時職員の意見や提案を聞いている。	ホーム長・管理者は、月1回の職員会議時や毎朝のミーティング時（8時35分～9時15分）に職員の意見や提案を聴き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働の減少を図るべく人員の確保を行い、給与の見直し、手当の見直しなど環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が少ないが働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設を訪問し記録や施設内を見学		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学してもらったり、事前に御自宅を訪問し、本人や家族から要望等をお聞きし安心して暮らして頂けるようサービスを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と連絡を取り、不安、要望等の話し合いをし、本人の様子、生活などを拝見させて頂き、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、介護職員でカンファレンスを行い、何が必要かを見極めサービスに導入している。他のサービスは利用していないが併設しているデイサービスへ遊びに行く事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の苦にならない出来る事を考え掃除等の日常的な事や裁縫、洗濯物たたみ等の仕事を共にしたり、暮らしのパートナーの関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の手紙による状況報告や変化時などを電話で報告する事などで遠方の余り面会に来られない家族にも安心して喜んで戴いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に馴染みの場所にドライブに行ったり買い物等に行き、顔馴染みに会ったりし、馴染みの人や場との関係維持に努めている。	家族や親族・友人が訪問しやすい雰囲気づくりに留意して、馴染みの人の関係継続の支援に努めている。調査日、面会に来られた姉妹から「ここは居心地が良いから長居してしまう！」と感謝の言葉があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく皆が参加できるレクリエーションを増やして孤立を防ぎ、利用者同士が関わり合い支え合えるよう、職員が配慮し支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られたり、入院した人を近くに行った時には訪問したりお見舞に寄ったりし家族、本人との関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中、遠慮なく話せる関係性言い出しやすい雰囲気作りの中希望や意向を汲み取り、又家族の希望を聞きその人らしい生活が出来るように支援している。	サービス利用時に、意向・思いをきちんと把握するように努めている。また散歩時や入浴時などに、どんなことでも話して頂けるような関係づくりを心がけているが、職員全員の共有出来るツールはまだ作成されていない。	利用者の意思を尊重して、ゆとりのある暮らしの支援を行っているが、本人が自分らしく暮らし続けることをチームで支えるための共通のツールとして、例えばセンター方式等の一部分からの利用方法や活用の仕方を職員全員で検討することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、ケアマネージャー等から、これまでの生活歴、経過経緯等をお聞きし、入居後は家族等の面会時に色々な話を聞いいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態にあった支援を行い過剰介護しないように心掛けている。毎日のバイタルチェック、機能訓練、月一回の嘱託医の往診等で健康管理を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のミーテング時、変化があれば随時話し合い、ミニカンファレンスを行っている。月に一度の職員全員で意見を出し合い3ヶ月毎に見直し、本人、家族の意向に沿った現況、課題を介護計画に反映している。	週1回、担当職員とミニカンファレンスを行っている。利用者・家族・関係者とも話合い、3ヶ月ごとと、状況に応じて随時に見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日、夜勤の状態を記録し情報や注意点など申し送りノートに書き朝のミーティングでも話し合い、 援助や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の状態に応じて支援している。食事形態の変更、親類の家の訪問等様々な面で柔軟な対応が必要で実践に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週、音楽療法士を迎えての音楽療法や買い物、外出などを通じて外的刺激を受け、楽しみが持てるよう支援を心掛けているが地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医に月一度の往診を依頼しており全員の検診を受けている。状態に変化のある時には、その都度電話で相談し指示を仰いでいる。又、内科以外の専門医への受診支援も行なっている。	利用者・家族の希望を大切にして、かかりつけ医の受診や協力医の月1回の往診を支援している。隣接のデイサービスの看護師の協力も得て、利用者一人ひとりが適切な医療が受けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室と相談したり情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の家族には要介護4になった時点で又は医療行為が生じた時に今後について話合っている。入院出来る病院の先生にかかり、本人の状態、家族の希望、先生に判断を仰ぎ、出来るだけ希望に添えるよう支援している。現在看取りは行なっていない	現時点では看取りは行っていないが、終末期に向けて、本人らしく過ごしていただく方針である。状況変化に応じて現在の事業所で、出来ること出来ないことを伝えて、段階的に合意をとりながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し皆が見えるとこに貼っている。訓練は定期的のは行なっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回避難訓練を通じて把握夜間を想定しての訓練も行う。地域の区長さんに協力をお願いしている。災害について市役所防災対策推進課の方を迎えて研修会を行なう。	3月に熊野消防署の協力を得て、デイサービスと合同で、防火訓練を行っている。また10月に、南海トラフ巨大地震14メートル津波想定で、避難場所20メートルの避難場所への避難訓練を行っている。久生屋地区の防災訓練に参加し、地域との協力体制も築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉がけや対応をしている。	利用者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重することをケアの基本としている。名前の呼び方・排泄時・入浴時・居室に入る時など、利用者の気持ちに添うように優しく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮なく言えるように関わりを多く持っている。自己決定のできない方には思いを 汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は一緒に食べてもらっているが、日中の過ごし方や就眠時間は各人の希望にそって過ごしてもらう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る人には自身で行なって頂き出来ない人には、その人らしい服装を選んでいる。カットは美容師さんに来てもらっている。毛染めなどは入浴前に職員で行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や季節の物を取り入れた献立を立てている。利用者と一緒に買い物に行く。食事の準備はできないが、後片付けを一緒に行なっている。時々懐かしいおやつなどは教わりながら一緒に作っている。	調理の音や匂いで五感を刺激し、食事が楽しみなものになるように工夫している。職員も同じテーブルで一緒に食事をしながら楽しい会話に花が咲き、和やかな食事風景である。また、懐かしいお八つ(どら焼き・寒天・・・。)づくりや園庭で収穫した果物のジャム作りを皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量は毎日チェックしている。一度にたくさん摂取できない人は回数を多くして必要量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行なっている。自分で、できない方は職員が手伝いうがいなど行なっている。就眠前は義歯の方は洗浄剤につけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほぼトイレでの排泄援助を行なっている。夜間はポータブルの方と一応リハビリパンツを使用されている。	日々の寄り添うケアから尿意のサインや一人ひとりの排泄パターンを把握して、自立排泄に向けた支援を行っている。（オムツからリハビリパンツでの排泄になられた方もいる。）	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時にバナナやヨーグルトを食べている。食事にもなるべく繊維質な物を水分などもしっかり摂取してもらえるよう声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて週2～3回入浴している。個々の都合で入浴できない時は日を替えて対応し、入浴剤など利用しリラックスできるよう工夫している。	入浴はローテーションを組み、不公平感が無いように工夫して入浴が楽しめるように支援している。利用者一人ひとりのこだわりにもきちんと対応し、園庭で採れた、柚子や菖蒲・・・なども使用して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に行き、好きな時間に少し昼寝をされる方もおられ、夜間も自由に就眠している。なるべく希望に応じている。状態によって安静をとって頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を個人のファイルに綴りすぐに見られるようにしている。手渡しし服薬の確認をしており、症状に変化のある時は嘱託医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	綺麗好きな方には掃除を、手芸の得意な方は雑巾を縫って頂いたり、洗濯たたみ等のお手伝いをと個々に役割を持って支援している。リラックスでき楽しめるように足湯を毎日行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内の庭を自由に散歩したり職員と一緒に食材等の買い物に行っている。車椅子の方には玄関先や庭にてリハビリも兼ねて外気浴を楽しんでもらっている。	四季のお花見や花の窟神社のお綱掛けなどの地域の行事に出かけている。また隣接した広い園庭にあるブーゲンビリアの花の棚での外気浴や、季節の果物（八朔・甘夏・柿・レモン・・・。）の収穫は利用者の楽しみごとになっている。職員と1対1のドライブや外食など利用者一人ひとりの希望を把握して支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、一緒に買い物に行た時などお預かりしている財布をお渡しし自身で支払をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時には、いつでも電話をしてもらっている。手紙を出される方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かみを出せるよう、各居室の入り口にのれんを付け、プライバシーも守っている。廊下の壁やホールに写真や作品を飾って季節感を取り入れている。	リハビリにもなるように、利用者の名前が書いてある手形が高い位置に掲げられてある、共用スペースは清掃が行き届き、安らぎの空間になっている。廊下もゆったりしており、随所に生活感や季節感を取り入れて、居心地良くすごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでの位置は決まっている。テレビを観る時やレクリェーションの時などは気の合う利用者同士が一緒にソファーに座っておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や身の回りの物は今まで使い慣れた物を使用している。家族の写真を置き居心地良く暮らせるように工夫している。	ベランダに自由に出入りできる大きな窓のある明るい居室の入り口には、表札や職員手作りの素敵な暖簾が掛けてあり、家族からも好評である。自宅の空撮や家族の写真・季節の飾り物で、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名札を付けている。トイレや浴室など大きく名前を書いて分かりやすくしている。廊下等には手摺を取り付け余り物を置かないように安全に配慮している。		